

今按豆州志に大島波浮湊にます由みえ伊豆國式社攷證にも賀茂郡大島波布湊鎮座慶長十八年の上梁文に羽部大后大明神とみえて今に波布大后とも波布比賣明神とも稱へ來れり三宅記に三島大神島に二后神を置給ふ事を記して大島に置たまふ后をば波分の大后とぞ申けるかの御腹に王子二人おはします一人をば太郎王子おほい所とぞ申ける一人をば次郎王子すなひ所とぞ申ける新島に置給ふ后をばみちのくちの御門の大后とぞ申ける云々神葉島に置給ふ后をば長濱の御前とぞ申ける云々三宅島に置給ふ后をばいなばいの后とぞ申ける云々とありて各神名式に所載の神等なれば波分の大后則ち波布比賣命に坐しと上に舉たる上梁文にも符合て論ふ迄も非ずとみえたるが如く此大島に坐すが本社にして内地賀茂郡稻生澤郷川津庄木郷波布明神も同神なれど神社殿録に本宮は島に在せば常に參詣も難き故に本郷村にも遙宮として祭れるなるべしと云るが如し

伊賀牟比賣命神社 稱后大明神

祭神 伊賀牟比賣命

今按この神は三島神三柱の后神を三宅島村々に置玉ふ事を三宅記に嫡女をば伊豆郷いがいと云處に置まるらせ給ふ云々とあるイガイは伊賀牟の轉訛と聞ければ三島神の后神にます伊賀牟比賣命を祭れること著し

祭日

社格 (村社)

所在 (三宅島伊谷村) 三宅島伊賀谷村

今按豆州志に三島大社の攝社淺間の神社の事を記して在小濱第二宮と稱す神名記の正一位千眼大井是也云々或云式社伊賀牟比賣命也伊賀牟はいけがみなり小濱池上に坐せば也神官云木花開耶姬を祀ると今郷宮と稱すとあれど伊豆國式社攷證に賀茂郡三宅島伊賀谷村鎮座后大明神是なり其は村名の伊賀谷は伊賀牟の轉訛と聞え古き祭文神樂歌などに伊賀伊の后とみえ今に后宮云々と唱へ來れるを以て證すべしと云りなほ上に引る三宅記の文をも合考へて此地に坐す社なる事を知べし

伊古奈比咩命神社 名神

祭神 伊古奈比咩命 稱日濱大明神

今按伊豆國神階帳に一品當きさきの宮とあるは此神とみの伊豆國式社攷證に明曆中の上梁文に諸島大明神の本后也大明神は三島明神なり傳に云孝安天皇六年に建立すと三島明神伊豆へ渡り此に御坐まし其より三島へ還らせ玉ふ因て此を古宮と云又五社明神とも云と三島と同じく其三神は未詳古は神領七十餘町嗣宇社大家三十六戸祭祀年に七十五度諸式みな三島に異なること無し大久保長安獻る所の金鼓の文に伊古奈比咩命慶長十二年三月云々とあ

云り證とすべし

神位 淳和天皇天長九年五月庚戌伊古奈比咩命神預名神一日本後紀引文徳天皇嘉祥三年十月壬子伊豆國伊古奈比咩命神授從五位上十一月甲戌朔詔以伊豆國伊古奈比咩命列於官社仁壽二年十二月丙子加伊豆國伊古奈比咩命神正五位下今按齊衡元年六月巳卯同位階を授ることあるは五位下何れか行文なるべし故今本文を存して彼を刪る

佐伎多麻比咩命神社

祭神 佐伎多麻比咩命

今按に三宅記に三島神の后神三柱ますことを云て三人をはかめつきの郷に置給ふ此御腹に王子八人一度に生まるらせぬ云々とあるによらば此比咩神は三島神の后神にてカメツキは即神着村と聞えたり

祭日

社格 (村社)

所在 (三宅島神着村) 三宅島神着村

今按式社考證に三宅島神着村鎮座也とみえ又此村に佐伎

多麻と稱する地名あるは必此比咩神の御名の原由と知らる、は更に云はす八柱の御子神の式に所載の神等に坐せば其母神とます后神の式に洩べき所謂なれば也されど現今御社の判然ならざるより遍く探るに東郷と云處におしやく明神と云小社あり此おしやくも御佐伎の轉訛にて佐伎多麻の佐伎より出たる稱なればなりと云る據ありて聞ければ之に従へり

伊太氏和氣命神社

祭神 伊太氏和氣命

神位 文徳天皇嘉祥三年六月庚戌伊豆國伊太氏和氣命授從五位下仁壽二年十二月丙子加伊豆國伊太氏和氣命神從五位上今按齊衡元年六月巳卯同位階を授ることあるは五位上何れか行文なるべし故今本文を存して彼を刪る

祭日

社格

所在 三倉島

今按式社攷證に賀茂郡三倉島鎮座稻根大明神なるべし神號の稻根は伊太氏の轉訛なる事云迄も無く今の社傍を流る、川を宇多豆川と唱ふるも伊太豆の稱の遺れると聞ゆるをはじめ島々の多かる中に此島は周廻四里許あるが形勝他に異りて四面凡て數百丈の岩壁峭立嶺を立たるが如くなるより石楯の意にて伊太氏和氣の神號にも由ありて聞ければ今之に従ふ